

クラウド

BCP対策（事業継続）

ITインフラの災害対策は、ネットワーク冗長化とデータセンター活用の二本柱で！

Point

変化するIT環境に合わせて
災害対策もアップデートを

災害対策では
ネットワークも重要な要素

堅牢なデータセンターの
利用でサーバーを保護

IT環境は変わっているのに災害対策はそのまま!?

地震や水害、あるいは大雪や火山の噴火などといった自然災害はいつ発生するか分かりません。これによって業務に支障が生じれば事業運営が大きなダメージを被ることから、災害発生時における事業継続に向けた取り組みが企業には求められています。

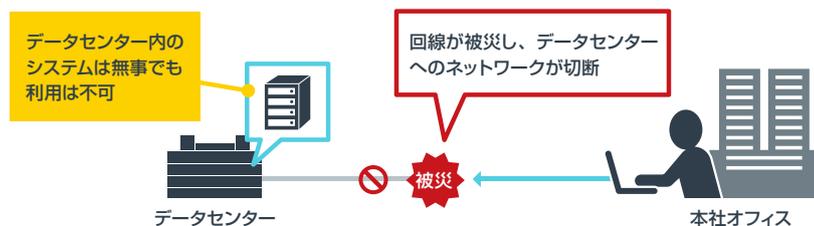
すでに多くの企業において、BCP(Business Continuity Plan)を策定するなど、災害への備えは進められていますが、事業や働き方は変化し続けていることを考えると、災害対策も定期的に見直すことが欠かせません。こうした取り組みをないがしろにすれば、せっかく策定したBCPも役に立たず、災害時に右往左往することにもなりかねないためです。

特に昨今において、見直すべきポイントの1つとして挙げられるのがIT環境における災害対策です。特に事業が拡大すればそれに伴ってサーバーなどの台数が増えることは珍しくなく、災害対策が後手に回っているといったケースは多いのではないのでしょうか。災害でIT環境が深刻なダメージを受ける前に、改めて災害対策を見直しましょう。

それでは、具体的にどのようなリスクを想定すべきかについて、具体例をもとに見ていきます。

ケース1：データセンターにつなぐネットワークが断線

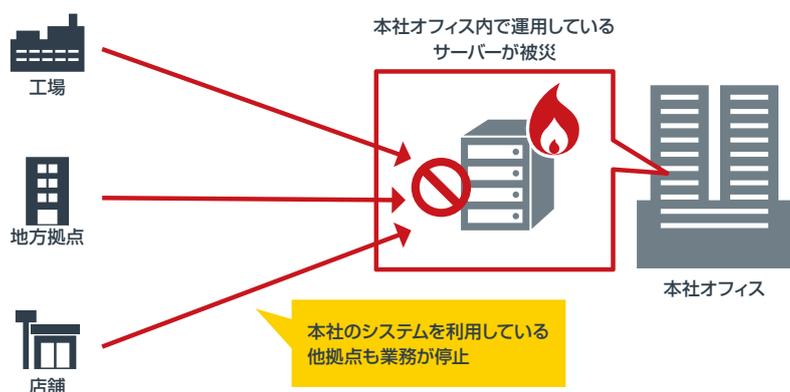
サーバーを運用するデータセンターが堅牢でも、そこに至るネットワークが断線し、システムを利用できないといった状況も考えられるでしょう。断線の理由には、自然災害のほか、工事での作業の誤りによるケーブル破損などといった人為的ミスも考えられます。この状況ではネットワークさえ復旧すればシステムは利用できますが、それまでの間は事業に何らかの影響が生じることは避けられません。



データセンターと接続するためのネットワークを選定する際、もちろん信頼性の高いサービスを利用することは大切ですが、災害による断線はいつ発生するか分からないため、災害対策ではプラスアルファの工夫が求められます。

ケース2：オフィス内で運用しているサーバーが被災

サーバーをオフィス内で運用している、あるいは建物が古いデータセンターを使っているケースにおいて、リスクとして認識すべきなのは大規模な地震でしょう。これによってサーバーのハードウェアが損傷すれば、その上で実行している業務アプリケーションが利用できず、事業の継続が不可能になるといった事態が起こります。



サーバーの用途によっては、被害がさらに拡大することもあると考えられるでしょう。たとえば生産管理システム、あるいは部材調達のためのシステムが停止した場合、生産現場にまで影響が及ぶことも考えられます。

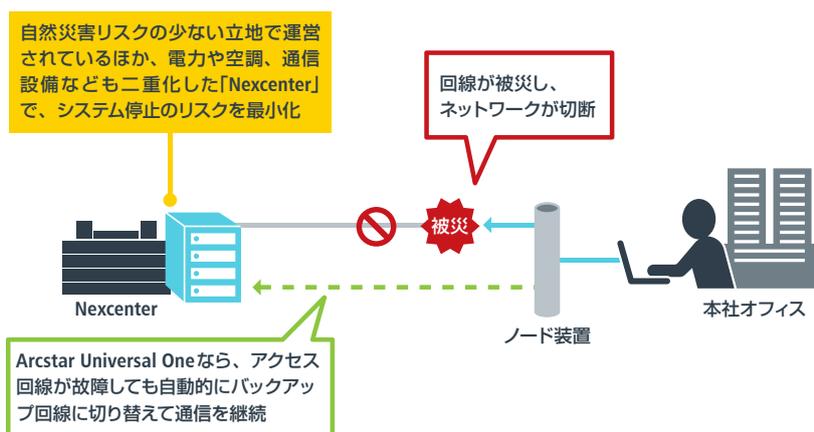
データの消失も看過できないリスクです。そのような事態を防ぐために行われるのはバックアップですが、タイミングによっては一部のデータが消失するリスクが無視できないほか、サーバーと同じ場所に保管しているとバックアップメディアもダメージを受けて復旧できなくなるといったシナリオも考えられます。

データセンターとネットワークの見直しで現状に即した災害対策を実現

このようなIT環境における災害対策の一環として、おすすめしたいのがネットワークの二重化とデータセンターの活用です。

たとえば拠点間、あるいは拠点とデータセンターを接続するネットワークにおいて、アクセス回線が二重化されていれば、一方が切断されてもバックアップ回線で通信を継続できる環境を整えられます。

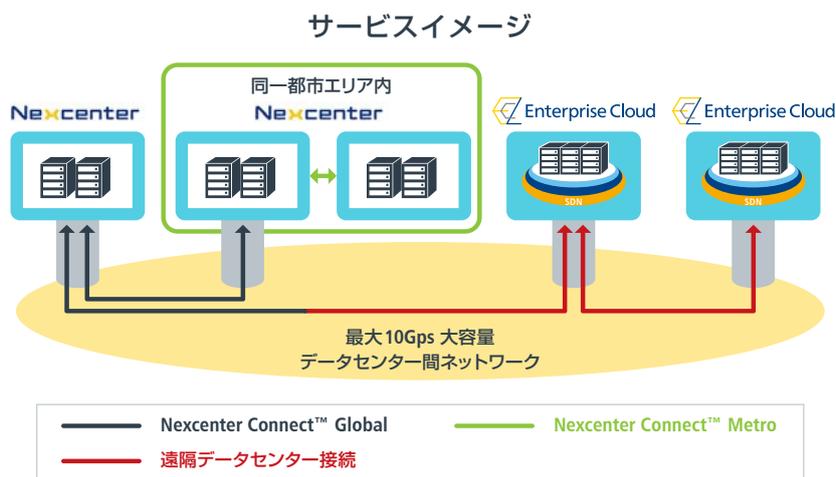
そうしたVPNサービスの1つにおすすめできるのがNTTコミュニケーションズの「Arcstar Universal One」です。稼働率99.9999%を実現したプレミアムプランが用意されているほか、バックアップ回線が標準提供されるため、極めて信頼性の高いネットワークを構築することが可能です。



最新のデータセンターの活用も、災害対策のレベルアップに有効です。たとえばNTTコミュニケーションズが提供する「Nexcenter」は、グローバル統一の「設備基準」と「サービス運用基準」に準拠した、世界トップレベルの高品質サービスを提供するデータセンターであり、世界各地でサービスが提供されています。自然災害リスクが少ない安全な場所に立地した、Nexcenterブランドのデータセンターを利用することで、事業継続性を高められるほか、電力や空調、通信設備が冗長化されているため、万が一の場合でもシステムが停止するリスクを最小化できます。

またデータセンターによっては、災害時に利用できるオフィススペースも提供されているため、オフィスが被災して業務を遂行することが困難な状況に陥った際、データセンターを臨時のオフィスとして使えることもメリットでしょう。

またNexcenterには、世界の主要データセンター間をつなぐ「Nexcenter Connect Global」や主要都市エリア内でデータセンター間を接続する「Nexcenter Connect Metro」、世界各国で展開するクラウドサービスである「Enterprise Cloud」とデータセンター、あるいはクラウド同士を結ぶ「遠隔データセンター接続」と呼ばれるネットワークが提供されています。これを利用すれば、遠隔地にあるデータセンターにネットワーク経由でデータをバックアップしたり、あるいはメインのシステムとは別にバックアップ用のシステムを構築し、災害時に切り替えて利用することで可用性を高めるといったことも考えられるでしょう。



災害が発生して「あのとき対策に取り組んでおけばよかった」と悔やむ前に、すぐにも取りかかって災害に強いIT環境を整備しましょう。

関連サービス

VPNサービス Arcstar Universal One

最適なクラウド利用にはネットワーク選びが大切。キャリア品質で国内外のシームレス化を実現する高品質・高信頼なVPNサービスです。

Nexcenter

Nexcenterは、高い柔軟性、拡張性、安全性を誇るデータセンターであり、お客さまが必要とする高品質のサービスです。